事業計画

1.　事業名称　　松戸の農業サポート・農業ボランティア養成事業

2.　実施主体

■　団　体　名：　　松戸農業サポート協議会　農業ボランティア部
野良の会

■　事業担当課：　　松戸市役所　　農政課

3.　取り組もうとする課題

（取り組もうとする課題について、その現状や背景なども含めて明確に記載してください。）

■私たちが目指す松戸市の農業・・・「市民参加型農業による持続・拡大を！」

私たちが居住する松戸市の農業は、市の面積が 61.33Km2 に対して農地は約１０%の 630ha という虫食い状態にある都市型農業地帯です。

しかしその農地は生産される野菜や果樹を柱とした農家と市民の「生活環境の保全の対象」ととらえるべき「共有の資源」だと考えます。

そこは、緑地としての資源のみならず消費地に密着する食育の資源としても大きな資源ととらえるべきだろうと思います。私たちはその資源を「地域の皆で維持」していくべきではないかと考えました。

いわゆる「市民参加型農業の持続・拡大可能なシステムの支援組織が不可欠である」との認識から、まず農業をボランティアする人々を育成する事業を第一に実行したいと考えるものです。

以下に改めて本市の農業概況を示し, それに沿った課題を考えました。

■松戸市内の農業概況（出典；平成 22 年度農業センサス・松戸市ＨＰより）

農家戸数	平成 17 年　729 戸	⇒平成 22 年　649 戸	89%
中核農家（1.0ha 以上耕作）	平成 17 年　239 戸	⇒平成 22 年　200 戸	83%
耕地面積	平成 17 年　685ha（果樹　89、田　113、畑　483）		
	⇒平成 22 年　630ha (78 、115、437)	92%（88%、100%、90%）	
農業従事者	平成 17 年　2287（女子　1105、男子 1182）		
	⇒平成 22 年　1950（女子　935、男子　1015）	85%（85%、86%）	
耕作放棄地	平成 17 年　対耕地面積比　2.5%	⇒平成 22 年　3.1%	

今後、農家戸数の減少、耕地面積の減少、耕作放棄地の増加はより強まっていくと予想される。

■市民の農業・自然とのふれあい

・しかしながら、家庭菜園の盛況ぶりなどから市民の中には土に触れたい、農作業をしたい、手伝ってみたい人が多くおられるのではと予想する。

■シニア層の増加

・松戸市は大都市近郊型の町として、60歳以上のウエイトが２５％とシニア層の増加が顕著だが、これらの人々を農業ボランティアに取込む事で、土に触れる仲間つくりを促進し、活き活きと生活するシニア層が増えることが期待できる。

■農家の担い手不足と支援組織とのプラットホーム作り

・人手不足が益々懸念される農家と、土に触れてみたいと考える市民の両者を結び付ける事によって、農家は農作業のサポートを受け、市民は農をサポートする楽しみの中から仲間つくりや新しいコミュニティー形成につながる。そんな仕組みがあれば両者に有益だと考える。

■都市型農業への理解の促進

・この仕組みは農家と市民との間での強いコミュニティー形成が期待できるので市民の農業に対する理解が進み、地産地消を考え、地元の農業を持続・拡大する意義を共有して行く事につながる。

4.　事業の目標

（事業に取り組む上で、どれだけのことを達成したいのか、その目標を記載して下さい。）

※事業の成果目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載して下さい。

①ボランティア員数、受入れ農家数

	平成25年	26年	27年
ボランティア員数	40	55	70
受入れ農家数	10	15	20

数字の根拠；先進地は受入れ農家の3倍の要員をもって対応としている。

私たちは　過去1年の実績をもとに条件を厳しく考え　3.5倍とした。

②受入れ農家の作付面積の増加

	平成25年	26年	27年
受入れ農家戸数	10	15	20
作付面積	10ha	15ha	20ha
ボランティア導入後	11ha	16.5ha	22ha

数字の根拠；受入れ農家の作付面積はボランティア導入で平年より10%拡大すると考えた。

その拡大面積が耕作放棄地の阻止につながると想定した。

5．事業内容

（どのような課題の解決につながっていくのかが、わかるように事業内容を記載して下さい。）

☆仕組みの定着性を図る

① 農業ボランティアについての周知・広報活動

② ボランティアの定期的な募集・養成・配置

③ 受入れ農家の募集

④ 農家とボランティアのマッチング（マッチング数の安定性、確実性）

⑤ ボランティアの安定した派遣と確実な派遣の実現（将来はこれに弾力性も持たしたい）

☆仕組みの継続性の強化策を具現化

A、農家の栽培技術を補助できるようなスキルの研鑽の機会を設ける（ボランティア研修会、ボランティアハンドブック等）

B、ボランティアドキュメント映像制作とイベントでの活用（通年で作成していく）

C、ボランティアの方の士気を鼓舞・維持するために、会と会員のための農園つくりを検討する

D、他の組織（生涯大学など）と連動・コラボ体制を検討していく。

・想定されるスケジュール（事業内容について具体的な取り組みを下記のとおり記載して下さい。）

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4～6月	① 春のボランティア募集 ② 春期ボランティア養成講座 ③ 農業講演会	① 広報。ミニコミ紙、ポスター ② 農業の実際；現地研修　ボランティア希望者 ③ 農業関連・医療
7～9月	① ボランティア研修会・・・上記仕組みの継続性のA ② 受入れ農家募集	① 関連機関と連携、農とボランティアを考える。 ② ボランティアの役割の周知
10月～12月	① 秋のボランティア募集 ② 秋期ボランティア養成講座 ③ 収穫祭でPR	① 広報、ミニコミ紙、ポスター ② 農業の実際；現地研修　ボランティア希望者 ③ 農家と共同・21世紀の森
1月～3月	① 団体PR	① 見本市
通年	◎毎月マッチング	① 毎月　20日　ボランティア活動希望日　申告 ② 農家　24日　受入れ要望日　申告 25日　マッチング ③ 28日　翌月の作業日連絡

6．協働の必要性と効果

（なぜ、この事業を団体単独で取り組むよりも、市との協働で進めることが必要なのか？
また、協働による取り組みが団体、行政（市）にもたらす効果を記載して下さい。）

① 松戸の農業の存在を知らしめ、市民参加型会の事業に対しての理解と信用が出来る。

② ボランティア・農家の応募者の双方に信頼と安心感をもってもらえる。

③ 講習会などの指導者養成に大きなバックアップとなる。

・初年度事業として夏季の暑さ対策の研修として熱中症を取り上げたが、スムースに講師選定が出来た。

④ 行政に馴染みにくいマッチング業務を委託できる。

⑤ 農業についての理解度をあげる窓口になる。

⑥ 農業の保全について、行政・農業機関（ＪＡ）・民間と３者一体となった活動が可能になる。

7．事業実施の役割分担

・団体が取り組むこと（提案者が、どのような「資源」や「専門性」などの「強み」を生かしてこの

事業を実施するのかについても記載して下さい。)

■提案者の役割

① ボランティアと受入れ農家の募集

② ボランティアの養成

③ ボランティアと農家のマッチング

④ ボランティアの派遣・調整

⑤ 民間側から、この活動の有意義さがアピールできる。

■担当課の役割

① 事業担当課；農政課

② この仕組みへの信頼性と安定性に大きな信用が出来る。

③ ボランティア・農家募集にかかわるバックアップが可能になる。

④ この仕組みの継続性が今後最大の懸案だが、行政・農業組織・民間の3者一体の体制は大きな基盤である。

8．将来の展望

(このモデル事業で得られた成果を活用し、将来どのような展開を考えているのかを記載して下さい。)

① この仕組み作りは現時点で「定着性」を求めた活動であるが、今後は「継続性」を重視した体制つくりが急がれる。

② 市内のイロイロな組織（例；生涯大学、千葉大、流通経済大、聖徳大のボランティア部門等）とコラボ体制をつくる。

③ ボランティア活動を映像化しておくことで、ＨＰやＳＮＳ利用でより周知徹底を図りたい。
（イベント時にも利用）

④ それらの上でこの仕組みが自立し支援体制がより拡大・成長していく方策を考慮する。
例；果樹、水稲を含む複合的農家を会員に。
通年型研修体制とそこからのボランティア供給体制つくり。
会が管理する圃場を有し、そこを会員に管理をしてもらう体制を作る。(会の共同農園)
行政及びＪＡとの枠組みにこの支援体制を組み込む。・・・等

以　上

（第6条関係）

事業の予算計画（収支予算書）

【労力換算（限度額算入）】

区分	科　目	金　額	積算内訳
団体	労力換算額　(A)	¥　313,000	※別紙　労力換算計算書　参照

【収　入】

区分	科　目	金　額	積算内訳
団体	野良の会拠出金	¥　30,000	雑費などを充当
	自己資金の合計額（b①）	¥　30,000	
	事業費収入合計額（b②）	¥　0	
	団体より拠出金（対象外経費分）（b③）	¥　91,000	対象外経費を団体会計より拠出
	自己資金、事業費収入等の合計額（C）＝(b①＋b②）＋b③	¥　121,000	
市	協働事業負担金申請額（D）	¥　270,000	
合計額(E)＝(C＋D)		¥　391,000	

【支　出】

区分	科　目	金額	積算内訳
負担金の交付対象経費	謝礼金	¥　30,000	農業関連講演　20,000円×1回＋10,000円×１回
	印刷費	¥　60,000	ボランティアハンドブック作成　200部×200円 ポスター　100部×20円　チラシ　2,000枚×9円
	のぼり製作費	¥　60,000	のぼり＋ポール＝3,000円×20組
	ＰＲ用映像制作費	¥　40,000	ＤＶＤ製作費30,000円、（撮影費＋DVD製作費）＋追加DVD10枚×1,000円
	消耗品	¥　40,000	紙、インク、プリント代
	使用料	¥　50,000	現地講習会時の農地、用具使用料　春3回、秋3回　計6回×5,000円／一回、会合会場使用料＝20,000円
	保険料	¥　10,000	行事保険料、農業現地講習会および現地研修会用
	通信費	¥　10,000	郵便料
	対象経費の合計額(F)	¥　300,000	
その他経費（対象外）	会議費（弁当代）	¥　13,000	会員の昼食　500円×26名人
	通信費	¥　10,000	会員のあての郵便料、ファックス代
	ネット使用料	¥　68,000	
	その他経費の合計額(G)　＝　(b③)	¥　91,000	
合計額(H)＝(F＋G)		¥　391,000	

【チェック項目】

1 協働事業負担金（D）が、対象となる経費（F）欄の90％以内であること。

2 自己資金（b①）欄が、対象経費（F）欄の10％以上であること。

3 自己資金（b①）欄が、「対象経費（F）－事業費収入（b②）－協働事業負担金（D）」と同額となること。

4 協働事業負担金（D）が、自己資金（b①）欄に労力換算額（A）欄を加えた額を超えないこと。

5 対象経費については、必ず証拠書類を添付すること。

労力換算計算書

（単位：円）

項　目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間×回数×500円
	マッチング	96,000 円	4 人× 4 h× 12 回× 500 円
	シフト体制検討会	81,000 円	9 人× 3 h× 6 回× 500 円
	ボランティア養成講座	40,000 円	10 人× 4 h× 2 回× 500 円
	ボランティア現地講習会	80,000 円	5 人× 4 h× 8 回× 500 円
	新規受入れ農家説明会	16,000 円	8 人× 2 h× 2 回× 500 円
			人× h× 回× 500 円
			人× h× 回× 500 円
			人× h× 回× 500 円
			人× h× 回× 500 円
			人× h× 回× 500 円
			人× h× 回× 500 円
			人× h× 回× 500 円
			人× h× 回× 500 円
			人× h× 回× 500 円
			人× h× 回× 500 円
			人× h× 回× 500 円
			人× h× 回× 500 円
			人× h× 回× 500 円
			人× h× 回× 500 円
合　計（A）		313,000 円	